

職リハ学会通信

No.175 2023年 9月発行

目次

第50回かながわ大会のご報告	2P
運営理事会報告	3P
委員会報告	4P
ブロック活動報告	5P
会員投稿・報告	5P
事務局からのお知らせ	6P

第 50 回かながわ大会のご報告

職リハを取り巻く大きな環境変化と懐かしさを感じる対面形式の大会

【大会の概要】

2023年8月25日(金)・26日(土)に神奈川県立保健福祉大学で開催された『日本職業リハビリテーション学会第50回かながわ大会』が無事終了したことを報告いたします。過去、たった3年間対面形式の大会が開催されなかっただけなのに、懐かしさを感じる大会でした。

大会参加者は、事前申込ならびに当日参加合計274人です。今年に入り、様々な対面形式の研修会や学会が再開されるようになりました。しかし、新型コロナウイルス感染が消滅したわけでは無く、研修会や学会の参加者数が「戻らない」という話しをよく耳にしました。このような状況下でも、前年度のオンライン開催の参加数とほぼ同数の参加者が、神奈川県横須賀市に来ていただきました。本当にありがとうございます。

大会プログラムとしては、口頭発表22件、ポスター発表16件、自主ワークショップ10件の申込みがあり、その他大会企画シンポジウム2件、大会企画市民参加オープン講座、学会国際委員会企画シンポジウム、学会政策委員会企画シンポジウムが開催されました。さらに、大会開会式の前に、学会研修委員会企画研修基礎講座が2件、学会総会の後には情報交換会も開催しました。特に、情報交換会は100人規模の開催となり、会場のあちこちで、名刺交換や近況報告がはじまり、職リハ研究や実践、昨今の障害者雇用等に関する社会的問題について、当初の予定時間を超過して話し合われていました。

【大会テーマと新しい施策への対応】

今大会のテーマは『能力を発揮して活躍する社会の構築に向けて』です。大会企画シンポジウムⅠ・Ⅱでは、我が国の最近の障害者雇用・就労支援の政策の方針や具体的な施策、その背景となる現状認識、職業リハビリテーションのさらなる発展に向けての人材養成のあり方など、様々な立場から報告がありました。3年後には法定雇用率が段階的に0.4%引き上げられます。この急激な上昇傾向は、まだ続くはずで、除外率引き下げも含め、これまで経験しない障害者雇用の「量的拡大」が求められる時代です。現状の取組みの延長とは異なる

、構造的な大きな変化が求められる時代になりそうです。同時に、障害者の個々の状況に応じた職業準備、就労アセスメント、職業紹介・マッチング、定着支援、さらには地域生活全般の相談や支援とネットワーク作りも、この「量的拡大」への対応が求められます。

一方、働く障害者に対する尊厳、公平性の高い処遇、特性に応じた配慮といった、働くことへの「質の向上」も欠かせません。この「質の向上」無くして、一人ひとりの雇用の継続は実現しません。そして、職業リハビリテーションが目指すものは、まさにこの「質の向上」の議論です。質の向上には、障害福祉サービス等のいわゆる福祉的就労の分野における生産性ならびに工賃向上、仕事へのアクセス、さらには労働者性の保証など、障害者雇用より広範囲な議論が必要です。

2つの大会企画シンポジウムで合計8人の登壇者が、それぞれの立場からの現状認識と課題を丁寧に整理して発表していただきました。職業リハビリテーションの視点から更に調査・議論が必要な内容がたくさん提示されました。また、オープン講座において松為先生から、改めて働くことの意味を、新しいキャリア理論やカタカナで表現されることが増えたウェルビーイングの話題を交えながら、職業リハビリテーションの体系としてどのように位置づけるかをまとめていただきました。対面形式の懐かしさを思い出すだけでなく、職業リハビリテーション分野における今後数年間の大きな変化を学術的にどのように考察するかを考える良い機会になったと思います。そして、次年度の松江大会にも引き継がれるものと期待しています。

【最後に】

最後に、大会準備の裏方として多大なご協力をいただいた、学生ならびに社会人ボランティアの皆様、情報交換会等の設営でご尽力いただいた「地域生活サポートまいんど」の皆様、快く会場・設備の使用ならびにサポートをいただいた神奈川県立保健福祉大学、そして1年前から企画・準備に奔走していただいた実行委員会の皆様に感謝いたします。

(第50回かながわ大会 大会長 志賀利一)